



ふ れ あ い  
市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

障がいのある方が活躍する  
南あわじ市へ

近年、障がいのある方は、高齢化の影響もあって年々増加し、本市でも障がい者手帳を持つ方の割合は約6%にのぼっています。私たちの周りの17人に1人が心や体に何らかの障害を抱えていると考えれば、誰にとっても身近なことであり、決して特別なことではありません。

最近では、法制度が整備され、障がいに対する理解も進んできましたが、障がいのある方が地域で自立した生活を送るのはまだまだ困難な状況にあります。

私は、かねてより超高齢化社会への対応策として、「シニア世代の社会での活躍の場の拡大」を掲げておりますが、高齢者に限らず女性や障がい者も含め、誰もが活躍できる地域社会の実現に向け、分野を超えて、ひとつひとつ課題を解決していきたいと思っております。

このたび改定した「南あわじ市障害者計画及び障害福祉計画・障害児福祉計画」においては、その活躍の場の重要な要素ともいえる「障がい者の就労支援」を1つの柱としています。

障がいのある方の就労意欲が高まり、国も障がい者雇用を積極的に進める中、本市においても本人の希望や特



コミュニケーション手段の一つとして、手話に取り組む市職員

性に応じた短時間勤務や福祉的就労など、柔軟な働き方をサポートする仕組みを作り、自立や安定した暮らしの実現につなげたいと考えています。

また、障がい福祉施策を考える上で同じく重要なのが、情報バリアフリー化の推進です。地域社会と活発に関わっていくためには、周囲の人々との円滑なコミュニケーションや、日々のニュースを知ることが不可欠ですが、それぞれの障がい特性に配慮した環境が整っていないため、いわゆる情報格差が生じています。そこで本市では、4月1日に「南あわじ市手話言語の確立及び障害者のコミュニケーションに関する条例」を施行し、市と市民、事業者が共通の認識を持つて、情報格差の解消に取り組んでいくこととしました。

障がいのある方が福祉施策の枠内だけで生活するのではなく、地域の一員として生き生きと暮らすためには、こうした施策をさらに充実するのはもちろんのこと、ご家族や支援者、市民の皆様など地域社会全体で支えあう「共助」を、これまで以上に推進していくことが必要と考えています。

南あわじ市は、シニアや女性の活躍も含め人材力が豊かな地域です。それをさらに進めて、誰もが持てる力を最大限発揮し、生きがいや喜びを感じながら自分らしく暮らせる地域社会を一緒に作っていきましょう。

美菜恋来屋での販売支援等を行う南あわじ市地域おこし協力隊の委嘱状交付式が6月4日に市役所で行われ、新隊員として、神戸市から移住された松岡優司さんが着任しました。

松岡さんは、5年前に福井県から吉備国際大学地域創生農学部第1期生として就学。卒業論文では「南あわじ市における農産物直売所の運営課題」というテーマに取り組みました。卒業後、神戸市にある農産物直売所に就職し、今年3月から店長職を任されていますが、南あわじ市の直売所を通じて農家と農業を支援したいと、協力隊に応募されました。



守本市長から委嘱状を受けた松岡協力隊員(左)

松岡さんが協力隊に就任  
農畜水産物直売所の販売支援

あわじ市における農産物直売所の運営課題」というテーマに取り組みました。卒業後、神戸市にある農産物直売所に就職し、今年3月から店長職を任されていますが、南あわじ市の直売所を通じて農家と農業を支援したいと、協力隊に応募されました。

自らの経験を中学生に伝える浅井教育長



浅井教育長が防災出前授業  
中学生に経験を語る

倭文中学校で5月30日に、浅井教育長が防災出前授業を行いました。浅井教育長は、「防災教育は自らの使命」と語り、震災を通して得た教訓を生徒らに伝えました。

ランテニア活動の様子について話し、「今を精一杯生きてほしい。そして、学んだことを人にも伝えてほしい」と呼びかけました。授業を受けた同校2年生の神田政一郎さんは、「自分の命だけでなく人の命も守れるように、防災についてしっかり学びたい」と話していました。

淡路文化協会 第22回文化賞

◆文化功労賞

(美術・水墨画)  
吉田 憲三さん (潮美台)

吉田さんは長年にわたる公民館講座等で絵画と水墨画の指導にあたったほか、個展では100号を超す大作に取り組むなど、絵画制作を通して、地域の芸術文化の創造と振興に寄与されました。

◆文化奨励賞

(書道)  
増井 玖玲亜さん (淡路三原高3年)

増井さんは平成29年度兵庫県高校総合文化祭書道展において全国総文推薦賞を受賞し、今年8月7日から長野県で行われる全国総合文化祭に県代表として出展されます。

ご受賞おめでとうございます



◆和太鼓演奏

和太鼓「志童」 (三原志知小)

和太鼓「志童」は「地域を太鼓の音色で元気に」を合言葉に、三原志知小学校全児童で和太鼓演奏に取り組み5年。島内外で多くの公演を行っているほか、平成28年度に全国コンクールで銅賞を獲得されました。

吉備国際大学からのお知らせ  
第6回植物保護シンポジウム

耐病性品種の利用と農薬創製の最新動向をトピックスとして

園芸作物の総合的な病害虫管理 (IPM) にとって重要な耐病性品種を取り上げ、その利用や開発の現状を学びます。また、農薬創製に関する研究の最新動向を知るほか、淡路の農業における病害虫の発生状況と対策について情報を共有します。本学植物クリニックセンターの新たな取り組みについても紹介しますので、奮ってご参加ください。参加申込および参加費は不要です。

◆日時 7月19日(木) 午後1時~5時35分  
◆会場 同大キャンパス大講義室 (C棟3階)

☎同大地域連携センター ☎42-4708

兵庫県政 150周年

平成30(2018)年、兵庫県は誕生から150周年の節目を迎えます。

【記念事業実施期間】  
平成30年1月1日~平成31年3月31日

これまで積み重ねてきた歴史や先人の偉業を振り返り、未来へのスタートの年とするため、県政150周年記念事業を実施します。詳しくは、右の2次元コードからホームページをご覧ください。

☎兵庫県政150周年記念事業課 ☎078-362-4263

